# 笑女都集楽（しょうめつしゅうらく）

株式会社キノコハウス 代表取締役　佐藤昭子

私の暮らす福島県西会津町奥川地域は大自然に恵まれた中山間地域です。日本の原風景。美しい山里です。東京生まれの私が夫の故郷を初めて訪れたときに「ここに住みたい」と強く思った場所です。脱サラ農業田舎暮らしを始めてから20年が経ちました。

ここ奥川地域は昭和４年3627人が暮らしていました。令和４年568人が暮らしています。５年前は710人でしたから５年間で142人減っています。１年間約28人減このまま人口が増えることがなければ20年で人口は０になります。

なぜこうなってしまったのか原因を追究することも大切ですが、私はここに来たときから「地域を活性化するのは若い女性だ」と直感していました。奥川に女子大学があれば18歳から20代の女性がいつも数百人いる地域になるのになあと夢見たりしています。

京都大学と日立製作所は人工知能（AI）技術を活用し2050年の日本に向けた政策提言をまとめ地方分散型を選択した場合は出生率が持ち直して格差が縮小し、個人の健康寿命や幸福感も増大するとしました。ただし、その場合でも、今から20年後までに、地域での雇用促進策のほか、独自財源確保に向けた新税導入や新エネルギー導入によるエネルギー自給率の向上策などに取り組み地域内の経済が循環するような政策を継続的に実現させなくてはいけないということです。若い女性の地域での雇用促進は何をどうしたらできるかなあとずっとずっと考えています。

孫：熊野神社美化活動

３年前に夫が他界したので、暴れ嫁の私が家や山や田畑などを守ることになりました。２年前から娘が私を心配して同居してくれ、９歳と６歳の孫たちも一緒、頼りになる婿殿もきてくれました。20年後、子孫たちがここで暮らしていけるかどうか考えています。ここに生業さえあればと思います。

消滅集落を「笑女都集楽」にするのが目標です。女性の笑顔は楽しい空間をつくってくれます。これからの20年をその礎づくりのために使いたいと思います。自分の使命、自分の守備範囲もようやくわかりかけてきました。まだ、活かされていない地域資源がたくさんある場所です。この大自然の山里には､「集楽」のヒントが確実にあります。

柳田國男氏の随筆「豆の葉と太陽」の「美しき村」に「村は住む人のほんの僅かな気持から、美しくもまずくもなるものだといふこと」とあります。私もこの20年間住む人の気持ち次第で村の雰囲気も景観も変わるということを実感してきました。美しく暮らそうとする村人がいて、村は美しくなる。楽しく暮らそうとする村人がいて、村は楽しくなる。私も、美しく楽しく暮らそうとする村人となり、20年後、女たちの笑顔の都になるように。そして、子孫たちにもその思いを伝えていくことを忘れないようにしたいです。未来をつくるのは子孫たちですから。

（さとう　あきこ）


農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/